

地域ボランティア プログラム

「高校生との竹林整備」

2017/1/21



1月21日(土)、本学の南大沢キャンパス松木日向緑地にて、都立高校の高校生を招き、大学生と高校生が協働して竹林整備活動を行いました。この企画は、東京都教育庁と連携して実施し、都立高校生に里山保全活動を体験してもらうことで、里山保全や資源の利活用について考えてもらうことを目的に、本プログラムの大学生メンバーが企画・運営を行いました。



教育庁を通じて都立高校に呼びかけていただいたのですが、この日は多くの高校が授業日だったことも判明し、残念ながら高校生の申込みは1名だけでした。そこで、急遽、プログラムメンバー以外の本学の学生にも呼びかけたところ、2名の大学生(うち1名は中国からの留学生)が参加してくれました。初参加のメンバー3名を迎え、プログラムメンバーの大学生9名が運営や活動サポートを行いました。「ひなた緑地遊学会」の方々にもご指導いただきました。

まず、ヘルメットやノコギリの着け方等からプログラムメンバーの大学生がアドバイスし、活動の説明を行い、3グループに分かれて現場へ向かいました。現場では、加藤先生に里山の現状と保全活動について解説していただき、参加者が実際の現場を見ながら知識を学ぶ機会を設けました。作業中は、運営メンバーの大学生が率先して竹の間伐作業について助言とサポートを行いました。

昼食時には、交流も兼ねて、グループごとに「竹をどのように資源として活用していくのか」について議論しました。そして、午後には竹炭用の竹割りや青竹踏みづくりなど、竹の加工と利用方法を体験してもらいました。

初めて里山保全活動を体験した参加者からは、「少し勉強に煮詰まっていたところでいい気分転換になり、いい運動にもなり、環境保全にも貢献できる良い活動だと思うので、もっと多くの人にやってもらいたい」「手づくりでモノをつくることの良さ、楽しさを感じた。早速、明日、ナタを買いに行き、さらに作品をつくらうと思う」といった感想が聞かれました。

また、運営メンバーからは「初めて体験する参加者の疑問は、とても新鮮に感じた。それに自分が答えることで、改めて知識や技術を再確認したり、まだ経験が足りないことなど、新たな気づきを得ることができた」といった感想が聞かれました。一方で、「どうしたらより多くの人が活動に参加してくれるようになるか。継続的に新しく活動を始めたくなるような魅力を伝える工夫が必要だと思う」といった、この活動への課題の意見も挙げられました。

今回、初めて参加した学生の感想からも分かるように、里山保全を大きく掲げて真正面から考えるだけでなく、“レジャー感覚で楽しい”“竹でモノをつくるのが楽しい”といった多様な入口から入り、多様な関心をもった人が大勢関わることが結果的に里山保全につながるのではないかと…初めての参加者との協働作業は、そんなことを考えるきっかけとヒントになったような気がします。